



# 次代につなぐ『ため池』フォーラム

in 東播磨

日時：平成 27 年 11 月 2 日(月) 12:30～15:00  
 場所：加古川市民会館大ホール  
 主催：いなみ野ため池ミュージアム運営協議会  
 参加者数：約 1,300 人（東播磨 900 人、地域外 400 人）



開催趣旨

県「ため池の保全等に関する条例」の改正を受け、今後、市町の地域性を踏まえた「ため池保全策」の具体化や新たなミュージアムの展開に向けて、東播磨の市町長をはじめ関係者の皆様と共に考えていく場としてフォーラムを開催

あいさつ



いなみ野ため池ミュージアム運営協議会副会長 生嶋洋一

取組開始から 13 年目を迎え、高齢者社会になり農政に携わる人も少なくなり、我々が「ため池」を次世代にどうつないでいくかが大きな課題。「ため池」は、地域によって、いろいろ顔が違うため、今一度見直しながら次世代へ繋いでいけるよう、地域と皆さんと共に頑張っていきたい。



兵庫県副知事 吉本知之

東播磨では県内に先駆けて地域の財産としてため池を守る活動が行われてきた。これを全県に広め、ため池を次世代に継承したい。今春、県は 64 年ぶりに「ため池保全条例」を改正し、東播磨の取り組みを盛り込んだ。フォーラムの内容を参考にし、推進方針方策を取りまとめたい。

第一部 特別企画

フォトメッセージ「ミュージアム 13 年のあゆみとこれから」

ナレーション 玉岡かおる



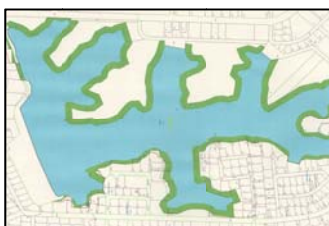
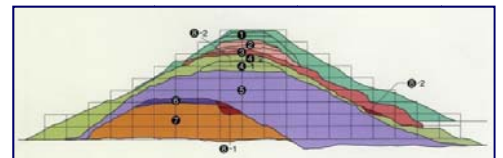
鼎談「みんなで考える ため池の未来の課題」



左 いなみ野ため池ミュージアム運営協議会長 玉岡かおる  
 中 大阪府立狭山池博物館館長 工楽善通  
 右 福岡県春日市都市計画課統括係長 原 豊

美しい播磨の財産である「ため池」を失うのか、保つことができるのか。先進的な取り組みをしている県外の方とともにヒントを探る。

【工楽】狭山池は大阪府狭山市にある日本最古のため池。古事記や日本書紀にも登場しており、616 年ごろの築造。「平成の大改修」で堤防をかさ上げし、治水ダムとして生まれ変わった。その工事の際に堤防が何度もかさ上げされていることが分かり、その断面を展示しようと博物館が設立された。かつて周辺には水田が広がっていたが、今では宅地の中に池がポツンとある。



【原】福岡市のすぐ南にある春日市は面積 14 平方<sup>キ</sup>に約 11 万人が暮らしている。交通至便で宅地化が進み、急速に人口が増えた。100カ所あったため池は今、約 20カ所。急速な市街化に伴ってため池が埋立られ、保全が必要となり、1974年に「溜池の保全に関する条例」を制定。ため池と周辺を保全地区指定し開発を制限。

身近に水辺があることは安らぎにつながり市民意識調査では90%が「住み続けたい」と回答。水辺もその一助になっているのかもしれない。

【玉岡】県内にもヒントがある。コウノトリ野生復帰の取り組みだ。関係者の尽力で着実に進んでいる。ため池も同じ。「農業者でないから関係ない」と思うのではなく、先人が大事にして残してくれた財産を守ろうという意識が必要だ。かいぼり時に飛来するコウノトリの生息環境づくりを進めたい。

コーディネーター

県立人と自然の博物館長 中瀬勲

ため池を失わない未来を作るため、今後どのように「ため池」を守っていくのかを議論していきたい。



【市町代表者からのコメント】

明石市ため池協議会連絡会 会長 尾仲利治	管理者の減少・高齢化による今後の適正な維持管理に不安。里と海の連携や子供達に自然環境を残していきたい。
別府皿池の未来を考える会 会長 広島純一	受益農地が大幅に減少。自治会管理、公的管理・管理支援が必要。公園化など身近で魅力のあるため池づくり。
高砂市ため池協議会 副会長 魚橋仁司	雨水調整池として活用する場合の市の方針や条例化など。コウノトリが舞う地域づくりを進めたい。
入ヶ池郷ため池を愛する協議会 会長 小山正治	農地、ため池管理作業への参加を促す仕組みづくり。水にまつわる先人の苦勞を子どもに伝えていきたい。
はりま★子ども若者応援隊 福原隆泰	地域住民のため池に対する意識変革が急務。郷土の治水家・今里伝兵衛の功績を地域に伝えていきたい。

【市町長からのコメント】

明石市長 泉 房穂		ため池は本当に大切なもの。農業にとって重要なだけでなく、漁業にとっても極めて重要。安全対策、自然環境保護の観点もある。さらに子どもたちにとっての学びの場。最後に地域づくりだ。ため池を守ることは、先祖伝来の歴史を守ること、未来を守ることだ。市民の理解を得ていきたい
加古川市長 岡田 康裕		池は地域で財産として持ってもらい行政が補助している。しかし、農業利用が減り、調整池としての防災的機能、住民の憩いの場という要素が強くなってくると、行政の関わり方は今までとは違って来るだろう。今、分岐点に来ている。地域でいろんな活動が展開されていることはありがたい
高砂市長 登 幸人		生活空間の一つの要素として位置付ける。財産として未来に引き継いでいきたい。ため池は背景の山と調和した素晴らしい景観を生み出している農業を支える文化遺産だ。現在、進めている治水対策事業の中でため池についても見直す。地域でのため池保全活動は、とても頼もしく感じている。
稲美町長 古谷 博		県内最大、最古の池も抱える。水不足で苦しんだ祖先が造ってつないできた「ため池」がなければ町は存在していない。基幹産業である農業のためには、ため池・水路の維持管理は万全を期して取り組んでいきたい。昨年末から今年初め、マナヅルが飛来。コウノトリにも来てほしい。
播磨町長 清水ひろ子		面積9万平方 <sup>キ</sup> の小さな町の中に12のため池がある。ため池の管理状態によっては臭いの発生、水生植物の穂が飛んでくるなどの問題がある。今後も多くの方が夢を持てるような取り組みをお願いしたい。今後も住民と協力し、池を守っていききたい

【まとめ】コーディネーター：県立人と自然の博物館長 中瀬勲



日本の高度成長時代に「ため池」が埋め立てられ公園や公共施設になったが、これからの超高齢化社会の中でため池の改廃が問題となってくる。

- ①地域創生として「ため池」を活用した地域づくりの推進。
- ②ため池の総合的な蓄積を後世へ伝えていくため、保全管理、歴史文化、多面的機能の評価、ため池文化の共有・展開などを調査研究する機関が必要
- ③ため池を生活空間の一要素としていくための「生態系サービス」（健全な環境を維持することによる利益の享有）を展開
- ④山間部や都市部など多様な「ため池」のあり方の検討が必要（市町推進方針）

【玉岡会長の閉会のあいさつ】

住民だけじゃない、また、行政だけじゃない、一体となって、何とかしなければならない。人間だけでなく、コウノトリを含めるあらゆる生きものと共に、この播磨の空を水を空気を土を何とかしていこうという事を皆さんと分かち合えた。今日はその第一日目だ。

